

書評

著：斎田俊明

ダーモスコピーの診かた・考えかた

書評者：大原國章(虎の門病院副院長)

本書はダーモスコピーについて日本語で書かれた3冊目の本である。著者はこの方面での世界的な第一人者の斎田俊明教授で、『臨床皮膚科』に「Dermoscopy Specialistへの道：Q & A」として2004年4月から2006年12月まで連載されたものに補筆し、さらに総論と用語解説・文献、所見の記載法、血管所見の一覧模式図を加えてある。索引も含めて190頁の、比較的ハンディな体裁となっている。

既刊2冊も加えてこれら3冊の性格づけを大学受験になぞらえてみると、1冊目（金原出版）は教科書、2冊目（秀潤社）は参考書・副読本、3冊目の本書はレベルアップ・自習用の問題集に相当する。

本書は初級・中級・上級に色分けされた32問の診断演習が骨格をなしているが、特徴はよく工夫されたその構成にある。右側の1頁に臨床写真、ダーモスコピー写真、臨床情報がまとめて提示され、さらにチェックポイントも指示されている。その頁をめくると

解説編となり、ダーモスコピー所見のとり方、個々の所見の定義・見え方、ダーモスコピーと病理との対応、類似症例や鑑別疾患が順々に系統的に述べられている。ダーモスコピー写真が再掲されているので頁を戻す必要がないし、矢印などを多用して所見と解説の対応がわかりやすくなっている。3冊目の本という利点を生かし、既出の2冊の構成から学んでいるように思える。

ダーモスコピーは臨床現場に導入されてからまだ歴史が浅いので、所見のとり方や解釈の仕方に通曉した指導的医師の数が少ない。系統的な教育システムも未完成で、教育講習会の開催も散発的にとどまっている。そのために、現場の皮膚科医の多くは、機器を手にして覗いてみてもその所見が解釈できずじまいかもしれない。

その問題を解決する意味では、演習形式で自学自習できる本書の果たす役割は大きいものがある。今後も、このような“問題集”が多数出版されて、ダーモスコピーの理解度が向上することを期待し

たい。

本書を通読すると、大学のゼミナール室で斎田教授の個人レッスンを受けているような感覚に陥る。所見のとり方の細心さ、その意味付けの緻密な論理、診断に至る明快さ、どれをとっても私にはとても真似ができない。ただし、“授業内容”がかなり高度な部分もあり、初学者がいきなり“教室”に入ってきてても雰囲気は圧倒される懸念もなきにしもあらずで、多少の経験がある人が知識の整理・基礎の再確認をするのに向いているかもしれない。

惜しむらくは一部の画像があまり鮮明でなく、色も自然でない点である。そのために、筆者には見えている所見が、読者には見つけにくい可能性がある。これは今後の改訂に待ちたい。

●B5 頁200 2007年
定価7,560円
(本体7,200円+税5%)
[ISBN 978-4-260-00440-4]
医学書院刊